

アレリー・コロネル・カミタン
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、フィリピンでの出来事です。

マリウスが家に向かって歩いてい
ると、家の中から人の話し声が
聞こえてきたので、まどからのぞいて
見ました。

だれがいるのだろうかと思ったので
す。お母さんは仕事で別の国にいたの
で、家にはいつもマリウスとローラ(おば
あちゃん)しかいません。

玄関を開けると、マリウスの友達がみ
んなそこにいたのです!

「サプライズ!」と、みんなが言いま
した。

「お祝いをしたいんだ。テコンドーの
大会で、君がメダルを取ったからね」と、
マリウスの親友のホセが言いました。

「すごいわね!」ローラはマリウスを
ぎゅっとだきしめました。「お母さんか
ら電話よ! きっとメダルについて、いろ
んなことを聞きたいんでしょうね。」

お母さんとの話が終わると、マリウス
は友達と一緒にパーティーを楽しみまし
た。ローラの作ったおいしい料理を味わ



いながら、みんなで語り合いました。

「あした一緒にボウリングに行きた
い?」ホセは帰る前に聞いてきました。

「行きたい!」と、マリウスは言いま
した。

その夜、マリウスはねる前にいのりま
した。「天のお父様、すばらしい友達や
家族をくださってありがとうございます。
お母さんが遠くにいる間、どうかお母さ
んを祝福してください。あしたホセと
一緒に楽しくボウリングができるよう祝
福してください。」

でも次の日、マリウスはボウリングに

行くことができませんでした。あらし
が来て、だれも外に出られなかったの
です。マリウスは家で、すわって屋根
に打ち付ける雨の音を聞いていまし
た。ホセに会えたらよかったのと思
いました。

雨は3日間ふり続けました。通りに
は水があふれました。マリウスの近所の
家も洪水に見まわられました。

ふと気がつくと、ローラが台所にいま
した。おいしそうな香りがするものを何
か料理しています。

「何を作ってるの?」と聞くと、
「ワードの家族のために食べ物を作っ
ているのよ」とローラは言いました。
「家が水びたしになったので助けてほし
い、とビショップから言われたの。」

マリウスはホセのことを考えました。
「ホセの家族の食べ物、作れるかな?
ホセたちもこまってると思うんだ。」

「すごくいいアイデアだわ」と、ローラ
は言いました。

マリウスはホセとその家族のためにご

飯をたき、目玉焼きを作りました。それ
から、ローラが食べ物ケースに入れる
のを手伝いました。

ようやく雨がやみました。マリウスと
ローラは食べ物をとどけるために、水を
かき分けて道に出ました。水はマリウス
のひざまで来ていたのです!

ホセとその家族は、家の外に立ってい
ました。ホセは泣いていました。

マリウスはホセをだきしめると、「おう
ちが水びたしで大変だったね」と言いま
した。「イエス様は、君のことを愛して
おられるよ! ぼくたちも君を愛してる。」

マリウスとホセと一緒に、ホセの家の
どろまみれになった物のかた付けを手伝
いました。マリウスは、かた付けをしな
がら、「神の子です」を歌いました。一休
みしているときに、マリウスは、作っ
てきた食べ物をホセにあげました。

「うちの家族を助けてくれてありがと
う」とホセは言いました。「そして、食
べ物をありがとう。とてもおいしいよ。」

「どういたしまして」とマリウスは言

ました。

ホセは聞いてきました。「イエス様につ
いてもっと話してくれないかな。それ
から、君が歌っていた歌も教えてほしい
んだけど。」

「もちろんいいよ!」とマリウスは言
いました。「日曜日に、ぼくと一緒に教会
に行かない? そこでぼくはイエス様につ
いて学んでいるんだ。それに、歌も一緒に

うたえるんだよ。」

「いいね」とホセは言いました。
マリウスは体の中が温くなるのを感じ
ました。ホセとその家族を助けること
ができて良かったと思いました。そして、
福音も分かち合えて幸せでした。



愛にあふれて